

2024.09.24 シニアクラブ Online 会合報告

秋の彼岸も過ぎて一気に気温が下がりました。まさに「暑さ寒さも彼岸まで」の諺の通りという所でしょうか。

この7月のOnline会合で述べていますが、花々はこの季節の変化を着実に感じながら咲き分けているのでしょう。古く万葉集にも多くの花が登場し季節に応じた歌がいくつも記されています。

■シニアクラブ会員の浅井信義さんは住まいの近くの自然に関心を持ってそれを写真に収めてきました。会社退職後には、地元の人たちと定例的な会合をもって花の名前のアドバイスを受けながら資料蒐集を行いそれを一冊の本にまとめました。それが、名古木(ながめき)の自然「花の素顔」です。(上の写真をクリックしてご覧ください。ここには150種の花が載っています)。

写真と共に植物分類、俳句の季語など何冊もの辞書や参考書を調べて自分の言葉で説明を加えています。更には万葉集の歌なども一部には加えており、本のまとめには時間もかかったことと思いますが、調べることは苦勞より楽しみになっていったとのこと、蘊蓄の詰まった資料に仕上がっています。それを見ながら参加者それぞれに話題を広げていきました。浅井さん自身がこの会合で「この資料を一人で見ているより同時に何人もの人と一緒にすることで、より楽しさが増す」と思ったそうですがこれは参加者、皆同様に感じたことでしょう。



◆「はじめに」で述べられた内容を引用すると、この地区で観察された草木の花は412種、その中から本には163種の花を選んで載せたとのこと。万葉集に収められた4516首の歌の内、花にかかわるものが約1500首もあり、そこに詠われた花の種類は163種類で、万葉集に載る花の種類との関連は無いがその数字にあやかって163種としたとのこと。身近な花、例えばキクなど野草ではないものはこの冊子には載せていないそうです。各ページの構成は右図の通り。上段に草花全体を写して説明文を添え、下段には接写で花の形状をアップで紹介。一部には補足する小さな写真も添えられています。



◆以下、浅井さんの気持ちが込められた説明文の一部を紹介します。

・ハキダメギク ⇒ 去年のNHK朝ドラ「らんまん」の主人公、牧野富太郎博士が世田谷の掃きだめで発見して名づけられた。これはなんとも気の毒な名前、感性が込められていない名前である。



・オオイヌノフグリ(大犬のふくり陰囊) ⇒ 美しい花でイギリスやフランスでは男性への思慕を綴ったロマンチックな花言葉を持つが、実の形状から名づけられた日本名は他にはない品位の無さである。



・オドリコソウ ⇒ みんな揃って盆踊りをしているかのような素晴らしいネーミングだ。

このように普段目にしないような色々な花も載った図鑑となっています。各自直接ご確認ください。

■花の図鑑を見ていると終わりがありません。そろそろお開き時となって、今日のテーマ「花」で浅見さんから4曲紹介されました。 <https://www.youtube.com/watch?v=hBW7pys65yc>

それでは次回にまたお会いしましょう。

2024.09.25 JVCKW シニアクラブ事務局 田代 周

